

幼稚園

- 学級づくり
- 保育の展開
- 個別の指導計画を生かした支援
- 好意に満ちた教師の言葉がけ

幼稚園～学級づくり

言葉の指導の工夫（年長）

【実態】

- 友達に対して、きつい言葉をかけてしまう子どもがいました。

【背景】

- 相手の状況や気持ちに気付いていないことや、言葉の意味がよく分からずに使っていることが考えられました。

【指導や支援の工夫】

- 「イガイガ言葉はごみ箱へ」「ふわふわ言葉の木」の掲示をつくり、出てきた言葉をクラスで知らせ合い、貼ることにしました。



【その時点の状況】

- 「これってイガイガ言葉かな?」「ふわふわ言葉にはこんな言葉もあるよ!」と話す言葉を意識したり、「イガイガ言葉」を注意し合うようになりました。

静寂の時間の工夫（年長）

【実態】

- 教師の話の途中で口をはさんでしまったり、最後まで聞くことができない子どもがいました。

【背景】

- 思ったことをその場ですぐ話すことが習慣になっていました。

【指導や支援の工夫】

- サインカードを見せながら話し、聞く時と話す時の区別がつきやすいうようにしました。



【その時点の状況】

- 言葉で伝えなくても、静かに聞く時間をつくることができました。

幼稚園～保育の展開

自分の気持ちのコントロールの支援（全園）

【実態】

○ 友達とトラブルになると、いつまでも落ち込む子どもがいました。

【背景】

○ 気持ちのコントロールが難しい面がみられました。

【指導や支援の工夫】

○ 「足を踏まれて痛い」という気持ちがずっと続き、その後も気持ちの切り替えができなかったため、その気持ちを受け止め、痛む箇所を確認し、傷がないことで落ち着かせました。



① まず、「痛かったんだね」と気持ちを受け止める。



② 痛む所を確認し、傷がないことで落ち着かせる。

【その時点の状況】

○ 少しずつではありますが、教師がつかなくても、自分で気持ちをコントロールできるようになってきました。

相手の気持ちを考える支援（全園）

【実態】

○ 友達と遊ぶ時にトラブルがよくありました。

【背景】

○ お互いに、相手の気持ちを想像できない面がみられました。

【指導や支援の工夫】

○ 友達が「入れて」と言ったら「いいよ」と言うと、友達は、いい気持ちがすることを簡単な絵を描いて説明しました。



簡単な絵を描いて、その時の友達の気持ちを説明する。

【その時点の状況】

○ 次に友達と遊ぶ時に、生かされていました。

幼稚園～保育の展開

視覚的な支援の工夫（全園）

【実態】

○ 私語が多く、騒がしくなりやすい子どもがいました。

【背景】

○ 教室の中の目につくものに興味が向き、集中して話を聞くことが難しいことが考えられました。

【指導や支援の工夫】

○ その時間に必要のない物については、カーテンで見えなくなるようにしました。



必要のない物はカーテンで隠す

【その時点の状況】

○ 落ち着いて活動に取り組めるようになりました。

視覚的な支援の工夫（全園）

【実態】

○ 廊下を走ってしまい、友達とよくぶつかる子どもがいました。

【背景】

○ 「はしらない」という注意の言葉が、心に響いていませんでした。

【指導や支援の工夫】

○ 「はしらない」という注意の言葉ではなく、「じょうずにあるこうね」という好意に満ちた言葉の標示に変えました。



注意の言葉から



好意に満ちた言葉へ

【その時点の状況】

○ 標示を見て、走るのをやめる子どもが増えました。

幼稚園～保育の展開

視覚的な支援の工夫（全園）

【実態】

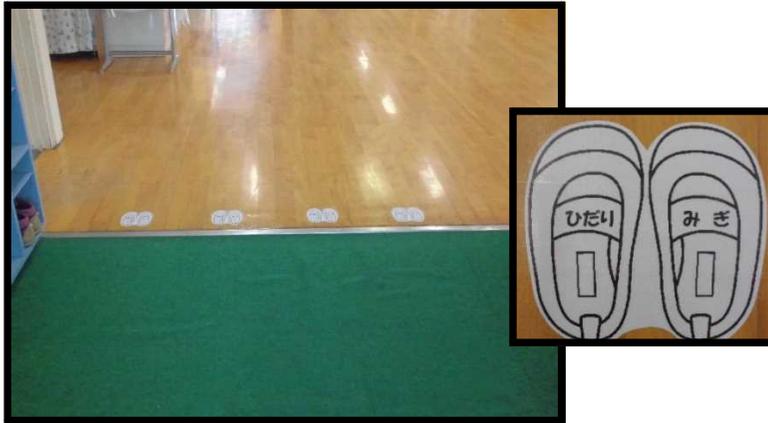
- 右足と左足の靴を逆に履いてしまう子どもがいました。

【背景】

- 視覚に訴える標示がないと分からなかったことが考えられました。

【指導や支援の工夫】

- 上靴を履く場所に、右足用と左足用の靴のかたちを標示し、そこに靴をおいて履くように促しました。



【その時点の状況】

- 右足と左足の上靴を間違えて履くことがなくなってきました。

視覚的な支援の工夫（年長）

【実態】

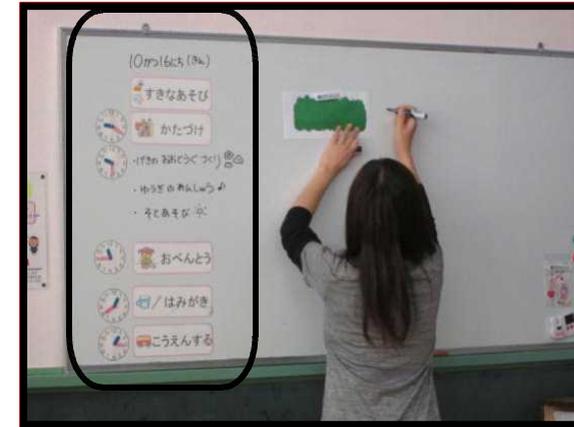
- 「次に何するのか」をととても気にする子どもがいました。

【背景】

- 見通しがないと不安になっていることが考えられました。

【指導や支援の工夫】

- ホワイトボードに、常に、1日のスケジュールを書いて掲示しておき、折に触れて、次の活動を予告しました。



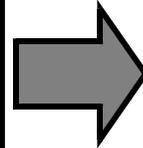
【その時点の状況】

- 1日のスケジュールを見て、安心して活動に取り組めるようになってきました。

幼稚園～個別の指導計画を生かした支援

個別の指導計画(A児)

子どものよさ (○) 学習や生活上、困難なこと (△)		長期目標 (1年後)	
○ 友達を誘って、一緒に遊ぶことができる。 ○ ものづくりは、集中して取り組むことができる。 △ 自分の思ったことを相手に伝えることが難しい。 △ 指示に従って、速やかに行動することができない。 △ 着席や起立時の正しい姿勢を維持できない。 △ 集中して話を聞いていられず、周りに影響を及ぼす。		・園の生活のルールを守り、速やかに行動に移そうとする。 ・得意なものづくりを生かして、友達に思いを伝えることができる。 ・環境に応じた態度で話を聞くことができる。	
短期目標 (1～3か月後)	場面	指導や支援の内容、方法	評価
・1週間に1回は、友達に思いを伝えることができる。	・保育中	・ものづくりを思いきり取り組んだあと、その作ったものを説明する機会を設定する。	・課題に根気よく片付けようとする姿勢が見られはじめている。
・身支度や片付けなどを1日1回、自分でできる。	・生活全般	・促しや指示を少なくし、全体のペースを優先して活動する。	・周りの様子を見て、気付けるようになってきた。
・家庭で1日1回はほめていただく。	・家庭との連携	・幼稚園でがんばった事実を伝え、家庭でも認めてもらう。また、保護者の悩みも聞く。	・毎日ではないが家庭でも認めるようになった。



よさを生かした支援

【指導や支援の工夫】

Aくんがつくった粘土の作品の素晴らしさを生かし、Aくんの思いを伝える機会を設定しました。

- ① みんなで、Aくんの作品のよいところを発表しました。
- ② つくった粘土の作品（じどうしゃ）について、先生から
 - ・ 作品名
 - ・ どうして、その作品をつくったのか
 - ・ どこを工夫したのか
 などの質問をし、Aくんに答えてもらいました。
- ③ みんなは、Aくんに称賛の言葉をかけました。

【その時点の状況】

○ Aくんは先生からの質問に、はきはきと答え、自分の思いをみんなに伝えることができました。また、みんなから称賛の声をかけられ、嬉しそうにしていました。

幼稚園～好ましくない言葉がけを好意に満ちた言葉がけに変える例

	好ましくない教師の言葉がけ	好意に満ちた教師の言葉がけ
1	「横入りしないでって言ったでしょ。」	「友だちの後ろに並ぶと順番が来るよ。」
2	「静かにしなさい！ほら！」	「Bのグループは静かに待ってるね。」
3	「いいから早くやりなさい。」	「少し急ごうか。」 (時計の針を指さして)「ここまでにできるようにがんばろう。」
4	「ちゃんとやらないといけません。」	「みんなのお手本になってあげてね。」
5	「また、わすれたの！」	「気を付けていたのに忘れたんだね。今度は持ってきてね。」
6	「だらしないよ。行儀よく食べなさい。」	「おなかとテーブルをくっつけると、こぼれないね。」
7	「足をバタバタするのを止めなさい！ 行儀悪い！」	「床と足の裏を仲良しにしましょう。」
8	「〇〇君、列から、はずれてるよ！」	「〇〇君、前の友達の前を見てね。」
9	「いいかげんに、話をちゃんと聞きなさい。」	「一度しか言わないからよく聞いてね。」
10	「叩いたら駄目って言ったでしょ。何でそういうことするの！」	「言葉で伝えてあげようね。」